

## 来 賓 挨 拶

茨城県教育委員会教育長

小泉 元伸

本県において18年ぶりの開催となる第36回関東地区学校図書館研究大会は、コロナ禍における現況を鑑み、オンラインで全国をつなぐ新しい形で、参加いただく皆様をお迎えすることになりました。

このような中においても、各都県から多数の皆様の御参加があり、本大会が盛大に開催できますことを心よりお祝い申し上げます。

大会主題「多様な学びで『生きる力』を育成する学校図書館」のもと、日頃より積み重ねてこられた授業実践の成果が全国に広く発信され、学校図書館教育の充実・発展に貢献されることを願ってやみません。

さて、私達は今、グローバル化の進展や技術革新の飛躍的な進化に加えて、昨年来のコロナ禍において安心・安全な日常生活を取り戻すべく、「新しい生活様式」への転換を余儀なくされています。まさに予測困難な「変化の時代」を迎えていると言えるでしょう。

このような時代において、子供たちがたくましく、よりよく生きる力を身に付けるため、学校教育に寄せられる期待は大きくなっています。変化に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力、学び得た知見や経験から新たな価値を創造する力など、持続可能な社会の担い手として多様な変化に柔軟に対応できる力の育成が求められているのです。

このような力の素地、そして豊かな心・人間性を育むためには、学校図書館の役割である「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を最大限に活用し、本大会の実践発表に見られるような「多様な学び」の空間を、子供たちに提供していくことが重要ではないでしょうか。

また、読書習慣を身に付けるための計画的・継続的な指導に、学校司書や司書教諭の専門的な知見を取り入れ、読書活動並びに指導の一層の充実を図り、豊かな心と言葉の力を育むこと、さらには、保護者や地域の図書館等と連携・協力しながら学校図書館の機能を拡充していくことも、不可欠な視点であります。

関東地区学校図書館研究大会においては、これまでも生きる力を育む学校図書館の役割について、優れた教育実践が紹介されてきました。今年度の大会においても、学校図書館の新たな価値を見だし、創造していく場となりますことに期待を寄せています。

結びに、本研究大会の開催に際し、御尽力を賜りました関係者の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、皆様方そして本研究大会の益々のご発展を祈念申し上げ、挨拶の言葉といたします。